

上海市浦東新区に製パン・食品加工機械の販売会社設立 (三鈴工機 株式会社)

会社概要(平成24年10月現在)

- 所在地:三重県四日市市楠町北五味塚
530番地
- 代表者:代表取締役 打田 誠
- 資本金:9,517万円
- 売上高:40億円
- 従業員数:145名
- URL:<http://www.misuzukoki.jp/main.html/>

①事業概要

<物流機器・製パン・食品加工機械製造・販売>

昭和21年に設立され、昭和25年に標準型ポータブルコンベアーの生産を開始した。その後、食品生産ラインコンベアー及び食品プラントシステムメーカーとして設計製作販売をスタートさせた。昭和58年に、店舗用小型製パン機械の生産を開始し、IBMオフコンシステムを導入してOA化に取り組んだ。さらには、マニシングセンターを機械加工工場に導入、標準コンベアー工場にローラー自動生産ラインを増設した。平成2年には、CADAMシステムも導入し、今日に至っている。

当社の経営哲学は、「お客様のニーズに応え、合理化・効率化を高める最新・最適システムを提供することである。

②海外展開概要

<中国における独資企業の設立>

中国進出を決意した背景には、小型製パン機器の客先から、中国現地での関連機器の供給とアフターケアのサポートを求められたことがきっかけである。幸いにも当社の海外技術提携先の外注企業が上海にあり、そこに技術を供与し、ライセンス生産及び販売を行うというのが中国ビジネスの始まりであった。

平成13年に中小機構を訪れ、技術供与契約書のドラフトのチェック依頼を行った。専門家によるロイヤリティ取得条件や仲裁事項などについてアドバイスを受けた。

③取組の重点(活用した支援策を含む)

技術供与契約書の詰めと業界事情視察を目的に、その後、上海に向かった。現地でも登録アドバイザーからアドバイスをもらい、同地のユーザーが製パン機器の供給メーカーに望むことは、①迅速なラインの修理と恒常的なメンテナンス②本体価格のコストダウンの2点が明らかになった。

平成15年にも中小機構を訪れ、今度は技術供与先の営業活動のアシストとマーケティング活動のため、同社社員を技術供与先に出向させることになり、給与水準、手当、社会保険、住宅などアドバイスを求めた。

その後、技術供与先との合弁交渉の結果、うまくいかなかったものの、平成16年に独資設立が認められるようになった。

④今後の事業展開について

中国内における食品機械のユーザー市場は人件費の高騰、労働環境の改善の必要性等により合理化、省力化、自動化ラインへのニーズが拡大基調にある。

その背景にあって当初の現地事業としてスタートしたリテールベーカリー向けの少量小型生産機種から食品加工量産型自動化ライン対応機種及び当社の主力製品のコンベアーの中国製販と中国拠点からアジア圏への輸出展開を図る計画が進行中。

更に製品のアフターケアの迅速な対応ニーズに応えるためにも、中国外のアジア圏諸国でのローカル製販の展開を企画していく予定。



(平成24年10月現在)

データ出所:(独)中小企業基盤整備機構